

アフリカン・ムスリムのトランサンショナルな移動に伴う宗教とビジネスのネットワーク

—広州、ドバイにおけるムリッドの活動を事例として—

Religious and Business Networks in African Muslims' Transnational Migration

A Case Study of the Senegalese Mouride Brotherhood in Guangzhou and Dubai

榎並ゆかり（同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科博士後期課程）

Yukari ENAMI (Graduate School of Global Studies,Doshisha University)

キーワード：トランサンショナルな移動、宗教ネットワーク、ビジネス・ネットワーク、ムリッド、広州アフリカン・タウン、セネガル

1 研究の目的

本研究は、アフリカからアジアへのトランサンショナルな移動に注目し、セネガル出身のムリッド(Mouride)を事例に、故郷と移動先の両方の世界を共時に生きる彼らの生活世界を描写しつつ、ムリッドのトランサンショナルなネットワークの特質を明らかにすることを目的とする。ムリッド教団は、西アフリカ・セネガンビア地域のムスリム教団の一つである。外務省HPによると、セネガルの人口1310万人(UNFPA:2012年)の95%がムスリムと言われる。ムリッド教団は19世紀末、アフマド・バンバという一人のスルフィーの周りに形成された小集団から発展し、ムリッド教団関係者によると現在も信徒数は増加しているという。

2 調査地、調査対象および調査方法

本研究は調査地をドバイ、広州とムリッドの出身国セネガルの首都ダカール、及びムリッドの聖地トゥーバとした。広州は移動するムリッドにとって商品買付のための目的地、ドバイはアジアとの中継貿易基地でもあり、アフリカからの買付商人が多く集まる場所である。広州、ドバイの長期滞在者のみならず、短期の移動を繰り返す買付商人にもインタビューを実施した。さらに、同一のインフォーマントが複数の場所で生きる全体像を描き出すために、広州、ドバイで出会ったインフォーマントの故郷(セネガル)を訪問し、家族にも面会した。中でも、アフリカとアジアのビジネスを通じて成長していく女性商人に注目し調査を行った。

調査は、2012年9月(広州)、2012年12月~2013年1月、2月~3月(ダカール、ドバイ)2013年4月(広州)、2013年6月~8月(ダカール、ドバイ)に実施した。

3 トランサンショナルな移動と宗教とビジネスのネットワーク

ムリッドは、国境を越えて独自のネットワークを構築し、故郷と取引先を往来しながら2つの世界を同時に生きるディアスボラである。発表者はムリッドのトランサンショナルなネットワークをフォーマルとインフォーマルに分類した。セネガル国内はもとより、移動先各地にダイラを結成し、聖地トゥーバを中心とする宗教ネットワークを構築している。移動先でダイラ(Dahira=各地域、職場等で結成された信徒組織)に参加していない女性たちは、ムリッド・レストランに集まり男性も巻き込んだインフォーマル・ネットワークを構築している。ムリッドのトランサンショナルなネットワークは、「フォーマル・ネットワーク=宗教ネットワーク=男性中心」が太い糸となり、「インフォーマル・ネットワーク=家族・私的関係・女性中心」の細い糸が縦横無尽に張り巡らされることによって構築され、移動先での経済的成功につながっている、と発表者は考える。

今後の教団の発展に応じてムリッド・ネットワークは大きく拡大する可能性を秘めている。ムリッドは、エスニック集団ではなく宗教集団であることから、移動先での婚姻や布教によってセネガル人以外にも広がっている。国籍・民族の枠組も越え、信仰とアイデンティティだけを根拠としたオープンなネットワークは今後も拡大する可能性が高く、移動先各地で彼らは経済的成功を収めていくであろう。そうなれば、ムリッドのネットワークへの加入にメリットが生じ、逆にムリッドのビジネス・ネットワークに加わるためにムリッド教へ改宗することも考えられる。インフォーマル・ネットワークへの参加のために、フォーマル・ネットワークに加入するという逆

転現象である。

ムリッドは、アフリカ（故郷）とアジア（移動先）の両方の世界を同時に生きながら、その卓越した能力によって構築された宗教とビジネスのネットワークによってアフリカとアジアを架橋する人びとのである。

《参考文献》

- 小川了(1998)『可能性としての国家誌—現代アフリカ国家の人と宗教』世界思想社
- 苅谷康太(2012)『イスラームの宗教的・知的連関網—アラビア語著作から読み解く西アフリカー』,東京大学出版会
- 栗田和明(2011)『アジアで出会ったアフリカ人—タンザニア人交易人の移動とコミュニティー』昭和堂
- コーベン, ロビン(2012)「交易ディアスボラ」『新版グローバル・ディアスボラ』,駒井洋監訳・角谷多佳子訳,明石書店
- 陳天璽(2001)『華人ディアスボラ—華商のネットワークとアイデンティティー』,明石書店
- (2005)「華人ネットワーク」,山下清海編著,『華人社会がわかる本—中国から世界へ広がるネットワークの歴史、社会、文化』明石書店
- 福田友子(2012)『トランサンショナルなパキスタン人移民の社会的世界—移住労働者から移住企業家へ—』福村出版
- 正木響(2012)「概説：ムリッド教団(1)—セネガル共和国の社会経済理解に向けて—」金沢大学経済論集 33-1,203-242
- (2012)「概説：ムリッド教団(2)—セネガル共和国の社会経済理解に向けて—」金沢大学経済論集 33-2,201-232
- 三島禎子(2011)「民族の離散と回帰—ソニンケ商人の移動の歴史と現在」駒井洋監修・編著,小倉充夫編著『ブラック・ディアスボラ』明石書店
- (2008)「ソニンケ商人の歴史—砂漠を越え海を渡る人びと—」池谷和信,佐藤廉也,武内進一編『朝倉世界地理講座・大地と人間の物語・アフリカII』朝倉書店,286-299
- (2008)「アジアとアフリカを結ぶ貿易商人ソニンケ」平成 16-18 年科学研究費補助金研究報告書「来住アフリカ人の相互扶助と日本人との共生に関する都市人類学的研究」
- 盛恵子・盛弘仁(2008)「代々木ジャーミィに集うセネガル人—イスラム神秘主義集団ムリッド教徒のダイラ活動と相互扶助」『平成 16-18 年科学研究費補助金研究報告書 来住アフリカ人の相互扶助と日本人との共生に関する都市人類学的研究』97-107
- Babou,C.,A.(2002) "Brotherhood,Solidarity,Education, and Migration-the Role of the Dahiras among the Murid Muslims Community of New York,"*African Affaires*101:151-170.
- (2007)*Fighting the Greater Jihad : Amadu Bamba and the Founding of the Muridiyya of Senegal,1953-1913*,(Ohio University Press)
- Bava,Sophie(2005)"Variations Autour de Trois Sites Mourides dans la Migration," *Autrepart*36:105-122.
- (2003)"Les Cheikhs Mourides Itinerants et l'Espace de la Ziyara a Marseille," *Laval,Anthropologie et Societes*27-1 :149-166.
- Bodomo,Adams(2010)"The African Trading Community in Guangzhou : An Emerging Bridge for Africa-China Relations,"*The China Quarterly*203 :693-707.
- Bredeloup,Sylvie(2012)"African Trading Post in Guangzhou :Emergent or Recurrent Commercial Form,"*Africcan Diaspora*5, :27-50.
- Pelican,Michaela, and Tatah,Peter(2009) "Migration to the Gulf States and China:Local Perspectives from Cameroon,"*African Diaspora*2 :229-244.
- Ross,Eric(2011)"Globalising Touba :Expatriate Disciples in the World City Network,"*Urban Studies*48-14 :2929-2952.
- 「広東のアフリカ商人たち」ル・モンド・ディプロマティク日本語版 (2010.5)
- <http://www.diplo.jp/articles10/1005.htm>